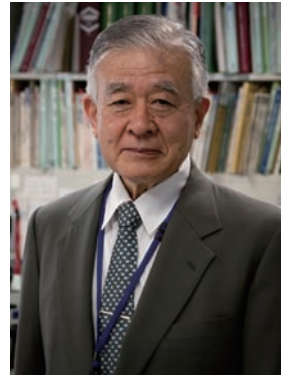


第13回公開県民講座

百聞は一見に如かず ～健全な臓器と病気の臓器の話～

近森病院病理診断科部長
円山 英昭



431名の参加

「百聞は一見に如かず～健全な臓器と病気の臓器の話～」と題して、6月5日（土）の14時から16時20分まで、高新RKCホールにて第13回公開県民講座が開催されました。会場には431名の大勢の県民の皆さんが参加してくださいました。

高知県民の健康度

今回の講座の目標は、病気の臓器像を多数お示しすることにより「百聞は一見に如かず」といわれるように、県民の皆さんが、病気への関心を深め、生活習慣を含めた健康管理を適切に実践される動機付けにさせていただくことにありました。

社会的背景として、高知県は平成19年度の基本健診受診率は全国最下位であり、そして平成20年度的生活習慣病による人口10万人当たりの死亡者数は全国でworst 3、出生児千人当たりの乳児死亡率はworst 1であることが報告されました。そのため、高知県は本年度、「日本一の健康長寿県構想」を策定しましたが、これは県民の健康を守るための「緊急」宣言です。今回の小さな「民」の企画が「県民長寿」構想の取り組みの一助になればと考えます。

病気と健全な臓器の対比

一方、多くの県民の皆さんには馴染みがない病理診断科とそこで勤務する病院病理医、業務としての病理組織診断や病理解剖などについてご説明し、病理解剖をさせていただいたことで明らかになった病気の臓器の肉眼像をお示しすると同時に、ご遺族のお気持ちを正しく生かすことが出来るように、ハンドアウト（事前資料）を作成し配布しました。

主題である病気の臓器の形状の理解のため、まず、健全な臓器の局在部位、

大きさ、形状や機能、ついで病気の種類と分類を説明しました。病気の臓器については主要臓器である心臓、肺臓、消化管、脳、肝臓や膵臓などは、画像診断法による病気の臓器像を4人の専門臨床医（消化器内科部長 岡田光生、循環器科部長 関秀一、呼吸器内科科長 中間貴弘、放射線科科長 清水和人）により提示していただき、病変臓器の肉眼像との対比を行ないました。一方、フロアでは「メタボリックシンドロームと関連する臓器病変-その原因病巣と結果病変」として、パネル展示を行ないました。

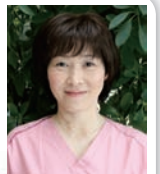
おわりに

今回、随時、随所で見事なチームプレイを発揮された院内各部署のスタッフに心からお礼申し上げます。最後に、ご来場くださった県民の皆さん、ありがとうございました。

7月の歳時記

睡蓮

近森病院外科外来看護師
池上 多恵



蓮（ハス）に似た形で、昼間に咲き夜は閉じることから名づけられました。未の刻（午後2時頃）に開花するので「ヒツジグサ（未草）」の別名があります。

葉や花が水に浮かぶ温帯産と、水面から少し飛び出して咲く熱帯産があります。花色や園芸種は豊富で鉢などで気軽にウォーターガーデニングを楽しめます。

花言葉は「清純な心」です。



絵・あゆ（執筆者の娘さん）

第1回近森病院・国立病院機構高知病院合同パス大会

退院調整パスを通して 見えたものは？

近森病院看護部長 久保田 聡美



第1回近森病院・国立病院機構高知病院合同パス大会は、5月22日（土）ふくし交流プラザで開催され、院外58名（県外10名）、国立病院47名、近森病院58名、合計178名の参加者がありました。

「ベッドひとつあればどんな患者さんでも受け入れよう」という県看護協会訪問看護ステーションの森下幸子所長の言葉が印象的な講演を皮切りに、活発な議論が展開されました。急性期病院はもっと「在宅の力」を知ることが重要だと痛感しました。

今回「退院調整パス」をテーマに選んだのは、合同パス大会をきっかけとして「退院調整」という問題を、2病院だけでなく地域全体で議論する場にしたいという思いからでした。当院でも1997年病床管理地域連携室設置に始まり、2003年地域医療支援病院認可以降、救急をお断りしないためにも「退院調整」は永遠のテーマとして取り組んできました。しかし、国の医療機能分化の方針のもと、限られた医療資源を有効活用すべきという理想と、

目の前の患者さんの療養（次の治療）の場を決定するという現実の間にはしばしば乖離があります。そんな乖離を埋めるためにも「パス」という可視化したツールを現実的なものに改定し、患



閉会の挨拶をする大串文隆院長（次回当番病院）

者や家族が安心して退院できる環境を整えていくことが、重要だと再認識した大会でした。

「退院支援」は入院時から、「退院調整」はタイミングを逃さずに……。そんな数多くの視点を明日からの調整場面に活かしたいと思っています。

よき友くすし

5

湿布薬ってたくさんあるんですよ



ハサミで切れ込みを入れる

近森病院薬剤部 古川 静保

捻挫や肩こり等で湿布は身近に使用されていますが思っている以上にたくさん種類があることをご存知ですか。そこで今回は湿布薬の違いについて少し説明させていただきます。

●温湿布：慢性的な痛み（肩こりや神経痛、腰痛など）

●冷湿布：急性の痛みや腫れに（打撲や捻挫など）

●テープ剤：粘着力、伸縮性が優れているため肩や良く動かす関節部分に

●パップ剤：保湿効果が高いため炎症による腫れを冷やす時に

この他にも湿布薬には様々な種類があります。症状や場所に合った湿布を選んでもらうと良いでしょう。湿布の種類によって薬剤が吸収される時間が異なります。また、光に当たると皮膚炎を起こす可能性のある湿布もあります。皮膚の弱い方は、はがす時間帯や副作用予防等を薬剤師にご相談下さい。貼るときには、

- ①貼る部分の汗を良く拭き取る。
- ②湿疹かぶれ、傷口には使用しない。
- ③温湿布は刺激が強いためお風呂に入る30分以上前にははがす。

などに注意すると良いでしょう。また写真のようにハサミで切り込みをいれると関節部分に貼りやすいです。たかが湿布と思わずに正しい使用方法を確認し効果的に使いましょう。



聴診器と私

看護師になり〇十年。近森勤務も〇十年。聴診器はダンナより長い付き合いで（笑）、常に側に居る存在となっていたが、部署異動があり、管理職となりなどして、手から離れて約5年が経過……。

今春、臨床現場に戻る機会があり、再び聴診器を手にかざることとなった。耳にあてると、聞き覚えのある呼吸音や腸蠕動音が聞こえてきた。この音が何を意味しているのか、正

My 聴診器と共に！

近森病院救急外来シニア看護師長 和田 道子

常はどんな音だったか、聴診のポイントはなどなど、一気に色んな記憶と思いがかけめぐった。

この5年間は、聴診器ではなく受話器を耳に当て、地域医療機関の先生方やスタッフの方々からの、ご紹介やお問い合わせ・転院相談、そして院内からの依頼の声（音）を聞かせて頂いていた。

どちらのキクも耳を傾け心をこめて聴かなければ聞こえない声（音

が）ある。聞き違いをすると大変なことになる。そんな思いで耳を澄ましている。

救急病院、地域医療支援病院で勤務していることを自覚し、安心して任せてもらえるよう、そしてそれが次に伝えられるよう知識、技術、心を磨いていきたい。



第8回高知中央医療圏脳卒中地域連携パス合同会合

点から面への
連携パスの構築を

高知中央医療圏脳卒中地域連携パス事務局
近森病院脳神経外科部長
高橋 潔



237名の参加者が集まりました

2010年6月6日、総合あんしんセンターにて、脳卒中地域連携パスの8回目の会合を医師会と共催で行いました。市民病院の跡地にできたあんしんセンターは駐車場も広くすばらしい環境でした。医師、看護師ばかりでなくリハビリのスタッフやMSW、事務職と多職種、多施設から計237名の参加がありました。

冒頭で県医療薬務課川上和徳先生にご挨拶をいただいた後、高知中央医療圏脳卒中地域連携パスの改定概要を事務局から提示しました。さらに急性期、回復期、維持期、かかりつけ医それぞれの立場から説明と質疑応答を行いました。後半は厚生労働省 四国厚生支局 高知事務所の金井崇指導医療官より、地域連携診療計画料の算定や申請の注意点などの解説がありました。

この圏域では脳卒中が年間1500～2000件発生しており、その6割がこの連携パスで運用されています。これまでは病院間が中心でしたが、今後はかかりつけ医とも、本格的に連携する予定です。地域連携がスムーズに行われているところにこういったツールを

導入することにより、より円滑な連携がはぐまれるものと考えています。

病院間とは異なり、かかりつけ医との連携はやや薄く、医師の個人的なつながりに頼っていました。これまでは点と点の連携であったものが面として

看護部 キラリと光る看護

part2

キラキラを繋いでいる思い

近森病院第二分院看護部長 松永 智香



約20年前、理事長の外来にすぐにも手術が必要な状態の方が診察にいられた。その方は一人暮らしで犬を飼っており、その犬は他人になつかず、頼める人がいないからどうしても入院はできないと拒まれた。

検査のため診察室から出ていかけた後、「病院の玄関に連れてきて飼うか?」「吠えたり、犬が苦手な方への配慮は?」理事長とそんなやりとりの会話をした。結論は、3日分の餌を与えて入院され、手術後2日目にポート

パックをつけ三角布をつり、病棟看護師と共に笑顔で外出された。日本でいち早く訪問看護ステーション近森が立ち上がったころの話である。

患者さん中心の医療を考える際、私の中でこのエピソードはいつも登場する。そんな医療を理事長の側で支えてきた看護師が、近森病院の外来部門で複数働いている。彼女たちは、時代が変わり、社会のニーズが変わっても、それに対応できる医療技術を着実に実践しながら、人間を思いやる心、その人らしさを尊重する看護を継続している。彼女らの共通点は理事長が大好きだということである。

今日も、診察を待っている患者さんやご家族に話しかけ、荷物を持ったり、車イスを押したり、さりげなく患者さんの側に寄り添い、温かな空間を提供している。これから五カ年計画で、もっと患者さん中心のニーズを反映した医療サービスが提供できるシステムづくりがスタートすることとなり、彼女たちの夢は膨らんでいることだろう。

また、退職し管理者を退いた後も看護師として看護を繋いでくれている4名の先輩看護師がいる。その先輩方の患者さんを一番に思う気持ちは、ずっとキラリと光る看護を繋いでいる。そして、これからも近森会グループと看護が大好きな看護師たちによってキラキラ輝く。

リレーエッセイ

はる

近森病院第二分院医事課 東野 典子

小さかった二人の子どもたちの成長は早いものでこの春、上の子が兵庫の大学へ進学することになり、下の子ども、はや中学生になりました。

いつも一緒にいたので、初めて外に出すことに、どうなることかと、年明けごろからずっと不安でそのことばかり考えていました。まわりからも、私の顔をみると「ほんとうに大丈夫?」と、心配してくれるほどでした。

4月になって兵庫に行った後、夕飯の買い物に行っても、「あれも、これも送ってあげよう」とカゴいっぱい買って、レジで夕飯の物を買っていないと気付く何度ハッとしたことでしょう。

下の子ども思春期になり、道で会って



声をかけても気づかないふりをされ、家に帰ると

道路では呼ばないように叱られました(笑)。親として、うれしいはずの成長も、ちょっぴり寂しい複雑な心境です。

母が、自分にできてくれたことをこれからしていくんだナアと、しみじみ感じた春でした。今回の体験を通して、初めて自分の母親の気持ちが分かった様な気がします。

高知市医師会第 217 回生涯教育カンファレンス

平成 22 年 5 月 27 日 (木) 午後 7 時
 於：総合あんしんセンター 3 階大会議室

ぜひ知ってもらいたい 根治できる不整脈



近森病院循環器科部長 深谷 真彦

頻拍性不整脈の発作に長年苦しんできた患者さんの多くが高周波カテーテルアブレーション治療によって根治できる時代になっています。

専門的な臨床心臓電気生理学的検査と心腔内電位情報の解析に基づいて本治療が行なわれますが、近年は 3 次元画像診断システムの驚異的な進歩もあって治療対象の範囲や治療成績がさ

らに向上しています。

こうした時代にあっても不整脈の発作に苦しむ患者さんの診断の発端は問診にあるのです。的確に問診し、診断し、根治し、頻拍発作から解放できることを当科の治療成績をもとにお話しし、アブレーション治療の現状を紹介しました。

第 69 回地域医療講演会

禁煙治療におけるテクニック

近森病院シニア看護師長 西岡 成巳
吉永 富美

谷口千枝先生



平成 22 年 6 月 5 日 (土) 17 時 15 分より、近森病院管理棟 5 階会議室にて第 69 回地域医療講演会が行なわれました。

演題は独立行政法人国立病院機構名古屋医療センターの禁煙外来専任看護師である谷口千枝先生による「禁煙治療における看護師のサポートテクニック ～基礎編～」と、近森病院シニア看護師長西岡成巳と吉永富美による「禁煙治療における看護師の行うカウンセリングテクニック ～理論から実践へ～」です。

講演に引き続いて、名古屋医療センター他、愛知県のがんセンターなど 5 病院に勤務する禁煙支援のエキスパートの谷口千枝先生をお招きして、地域医療講演会を行ないました。

講義の内容は、行動科学を基盤としたものでした。人間の行動を実証的に検証し、その法則性を明らかにするという「行動科学」においては、行動変

容ステージに合わせて適切な介入が求められます。

今回の学びを活かし、まずは禁煙に苦しむ目の前の患者の行動を理解し、適切な介入を模索したいと思っています。

私の趣味

華道部と一緒に生けませんか

総務部 山村 純子
企画情報室 新居見 温子

みなさん、華道部があることをご存じですか。近森病院新館正面玄関前、管理棟 1 階カウンタや近森オルソリハ病院に生けられているお花に気づかれていますか。華道部がそれらのお花を月に 2 回生けています。

生け花は、お花と枝の組合せによって、いろんな楽しみ方ができます。また桜やヒマワリなど、四季の移り変わりを感ずることもできます。

お稽古では最初に基本を学びます。先生が季節ごとのお花を用意して下さり、その中から自分で好きなお花を選んで自由に生けます。短い時間で集中し自分の思うとおり必死に生けた後、先生が私たちの生けた花がどうしたらもっと綺麗に見えるのかを説明しながら、アドバイスを下さいます。たった一本のお花の長さや傾き加減で、全く

ハッスル研修医 子育てをしながら



初期研修医
山本 亜希

近森病院の、先生方はもちろんコメディカルの方々の、エネルギーで楽しそうに働く姿に惹かれて、初期研修医として就職し、早 2 カ月がたちました。

4 月からは消化器内科でお世話になっていますが、はじめのうちは右も左もわからず、病院をうろろしながら、こそこそ怪しげに立ち回っていました。

でも、どんなに疲れていても、家に帰ればもうじき 3 歳になる娘の可愛い笑顔で癒されます。最近ピアノに興味があるようで、音楽が好きなお私としては、これを機会にピアノにバイオリンにと、色々画策して楽しんでいます。なかなか、会える時間は少ないですが、休日に家族で遊びに出るのがリフレッシュになっています。どこかい遊び場所があれば、ぜひ教えてください。

2 カ月が経ち、ようやく通常業務にも慣れ始め、指示出しすることも増えてきた今日のごろ。まだまだ新しく経験することも多く、緊張することもしばしばですが、少しでも早く役に立てるよう、頑張っていきたいと思ひます。



印象が違ってくことに驚きます。

毎回悩みながらも新鮮な気持ちで楽しく稽古しています。お花のパワーももらえるし、気持ちも安らぎます。一緒にお花を生けませんか？

出張報告

第2回
インジェクショントレーナー養成コースに参加して

一緒に悩み、進んで行きましょう。

新人教育担当一年生
新館4階東病棟主任看護師 布 美奈子



会場のテルモ・メディカルプラネックスのロビーの壁画「The Symphonic Wind2002」(画・田村能里子)の前にて

テルモ株式会社主催の09年度第2回インジェクショントレーナー養成コースに、当院から自分を含め2名参加しました。昨年の11月から2月にかけての4カ月に渡り、7日間のプログラムで行われました。

このインジェクショントレーナー養成コースに、北は山形から南は熊本まで総勢21名が集まり、メンバーのほとんどが教育担当者をしていました。年齢は20歳代後半から50歳代までおり、初めはお互いに探りあっているような印象がありましたが、3回目からはお互いに打ち解け合い、ミーティングを行なっても意見や考えが、それぞれ生の声で出るようになりました。

同じホテルを利用しているメンバーで夕食を食べに行き、その場で自病院について話したり、実際に自分たちが行ってきた指導についての意見を交わしました。そして、最終日には互いの連絡先を交換したりしました。

会場であるテルモ・メディカルプラネックスには模擬のナースステーションや病室があり、後から振り返り出来るように天井にはカメラが設置されており、実際にこの研修中も、自分たちの態度や動きなどを振り返るひとつの手段として使用されていました。

施設は医療における様々な研究、研修を行う場として充実しており、災害時にも適応できる場として地域に提供されています。そのため、いつでも対応出来るように施設内にある注射液や医療用具すべてに日切れ物を使用していないことには驚きました。

今回、インジェクショントレーナー養成コースに参加しているいろいろな人に出会い、注射技術について再認識し、指導者としての知識、考え方を学び、自己の振り返りも行なえました。

こうして学び得たものを今後現場で生かしたいと思います。新人1年生の諸君、自分も新人教育担当1年生です

(ちょっと歳をとっているかもしれませんが)。同じ1年生同志気軽に相談して下さい。一緒に悩み、一緒に進ん

で行きましょう。ちなみに今回一緒に参加した看護師は3階東病棟の森崎看護師です。

院外エッセイ

「世界記録保持者」
の悲哀……

木村 基

きむら もとい 1937年、中村市(旧)出身。平泳ぎの潜水泳法で活躍し、世界記録を2回、日本記録を13回更新した。昭和29年、横綱栃錦らとともに朝日スポーツ賞を受賞。中村の民俗資料館には幸徳秋水とともに肖像が飾られており、それをいきなり見た妻は「仰天だった!？」とか…



「おお、これはおいしい!」「こんなタタキは初めて食べた!」。

我ながら絶品!と自惚れている私の唯一の自慢料理、「タタキ」を口にした人はこぞって言う。故郷中村の先輩に伝授されたこの「幡多風タタキ」を東京在住時代から作り続けて40数年、これまでは友人知人のもてなしだけに供していたのだが、近頃、「男女共同参画センター ソーレ」などという所で出張調理をする羽目になってしまっている。この裏には妻への私の忍従の歴史が刻まれているのだが……。

地元企業からの再三の誘いを受け、高知に戻ったのが平成3年、その後1年余りして妻が仕事を辞めてやってきた。

東北の生まれで東京より西で暮らしたことの無い妻が、齢50を過ぎてから新しい土地で生活するのは大変だろうという弱みから妻を野放しにしたのが大きな誤算、専業主婦になったはずが女性センターに入り浸り、ジェンダーだ男女共同参画だと出歩くばかり、ついには退職した私

と入れかわりに某財団法人に勤め始めてしまい、結局、掃除、洗濯、買い物、家事の大半は私の肩に。以来、「主夫」をリッパ?に務めているつमりの私に、妻が敬愛してやまない某女子大名名誉教授は、「そんなことはあたりまえ。威張るようなことじゃないぞね、アンタ!」と非情な一喝。あー男はツライ、男女共同参画はキツイ!

然るに、調理学の大御所である件の名誉教授も私のタタキにだけは素直に「おいしいね〜!」。「これは男のアンタがつくるところに値打ちがあるがじゃから、みんなあに教えてや!」と、有無を言わず男女共同参画の行事に担ぎ出されてしまったというのがコトの顛末である。

我々世代の男、まして土佐のいごっそうには男女共同参画は馴染みがないが、「男だから」「女だから」で無理をしたり窮屈な思いをすることなく、幸せに生きようというその理念には共感できる。私のタタキ作りが男女共同参画に適うのなら、これもまた一興である。

感情を受け止めるための研修

近森会グループ統括看護部長 梶原 和歌



自分がいなく不安や怒り、恐れ、恥などの感情に圧倒されて生きづらさを感じておられる患者さんは、精神科だけでなく一般外来にもいらっしゃいます。わたしたち医療者はその方々のニーズの複雑さにふれるたびに戸惑いを感じます。少しでも理解力を高めるために、臨床心理学者であり教育学博士でもある遊佐安一郎先生をお迎えして5月28日（金）に研修会をもちました。

先生は現在長谷川メンタルヘルス研究所所長をされております。午前中は「面接促進のためのヘルピング・スキル」を、午後は第二分院で「感情調節困難のためのスキルアップグループと弁証法的行動療法」について、夜は他施設の方々も交え、「対応困難な患者・家族への対応」と題して地域医療講演会をもち、対人関係の技法の進歩の一端を学びました。



遊佐安一郎先生

よさこい祭り

「ちかもり」として 初参加！

よさこい実行委員会 山崎 啓嗣
(診療支援部)



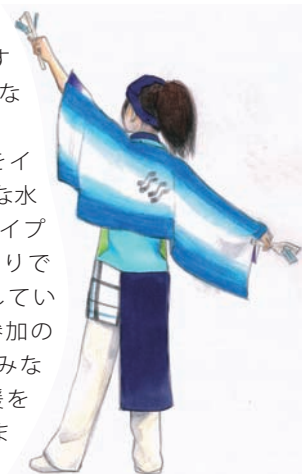
近森会グループでは、今年（第57回）のよさこい祭りに初参加します。近森会グループよさこいチームの名前は、『ちかもり』と命名され、皆さんに慣れ親しんでいただけたらと平仮名表示としました。踊り子やスタッフは、近森会グループ職員、関連会社職員とご家族で構成されています。

書：橋京身 よさこいの夏をエンジョイ！ みんなで楽しい思い出づくりをするために、また、患者さんやご家族、地域の皆さんの健康を願って格好良く派手に、粋に舞います。

テーマは「縦横夢人」。個性を尊重しつつ柔軟性を持って自由に活動する医療人が、結束してエネルギーに舞うことから選ばれました。縦横無尽の「無」には、未来を想像し「夢」

の文字をあて、また、医療人を表す意味で「人」がつけられています。

衣装には、川をイメージさせるような水色と白色のストライプがあり、また、踊りでは川遊びを表現しています。そんな初参加の『ちかもり』に、みなさま、是非ご声援を宜しくお願いします。



Chikamori ★ Kitchen 5

天ぷらソバ

臨床栄養部部長 宮澤 靖



今回は臨床栄養部の宮澤部長が担当。あざやかな包丁さばきでした！



今月は第5回のメニューから、天ぷらそばをご紹介します。そばつゆを作るときのこつは、みりんを「煮切る」こと。「煮切る」とは、みりんや酒などを加熱することでアルコール分をとばして濃縮し、旨みと甘味だけを料理に利用することです。このひと手間で、料理の味は生まれ変わります。煮込み時間が短い料理や加熱しない和え物などにみりんや酒を使う時には、ぜひ実践してみてください。

材料（1人分）

・そば 80g ・ねぎ 適量
そばつゆ
・薄口しょうゆ 10ml
・濃口しょうゆ 25ml
・みりん 25ml
・砂糖 大さじ 1/2
・だし汁 250ml

天ぷら

・エビ 中 2尾
・ナス 小 1/2本
・大葉 1枚
・さつまいも 40g
・かぼちゃ 30g

衣

・薄力粉 10g ・卵 1/2個
・水 適量 ・揚げ油 適量

作り方

- ①そばつゆを作る。鍋にみりんを入れ火にかけ、沸騰させる。みりんが沸騰したらさとう、しょうゆを入れて、だし汁を入れ、中火で煮る。
- ②エビは洗って皮をむく。なすは縦に切る。さつまいもは輪切りに、かぼちやも種をとって切る。
- ③ボウルに薄力粉を入れ、卵と水を加え混ぜ、衣を作る。
- ④天ぷらの材料に衣を絡ませ、サラダ油を180℃に熱して、材料を揚げる。
- ⑤沸騰したお湯の中にそばを入れゆでる。ゆであがったらザルに上げ、流水で洗い、ぬめりをとる。
- ⑥そばをどんぶりに入れそばつゆをかけ、天ぷら、ねぎを添えてできあがり。

水島広子先生をお招きしてワークショップを開催

心の平和を保つための考え方とトレーニング



第二分院副院長
宮崎 洋一



平成 22 年 6 月 4、5 日の両日、水島広子先生をお招きして「対人関係療法」のワークショップと、最近水島先生が力をいれておられる『AH：アティチューディナルヒーリング』のワークショップをおこなっていただきました。

対人関係療法はその人の抱えている対人関係上の問題に焦点をあてて

面接を進めていく治療法で、うつ病・摂食障害には「認知療法」と並んで有効とされています。

当日はケースの逐語録を出していただき対人関係療法のツボを実にわかりやすく教えていただきとても参考になりました。

AH は心の平和を保つための考え

方とトレーニングでよりよく生きるための哲学と指針になるものです。スタッフに実際の AH グループをおこなっていただいたのですがどのスタッフにも心に響く体験であったようです。

水島広子先生のプロフィール

● 1968 年 3 月 21 日東京生まれ。慶応義塾大学医学部卒業、同大学院修了（医学博士）。思春期前後の問題や家族の病理、漢方医学が専門。「対人関係療法」の日本における第一人者。慶大医学部精神神経科勤務を経て、民主党の公募・落下傘候補として 2000 年 6 月の衆議院選挙で栃木一区から初当選。2005 年 8 月まで 2 期 5 年間をつとめる。衆議院青少年問題特別委員会筆頭理事、民主党「次の内閣」雇用担当大臣、民主党男女共同参画委員長、次世代育成支援（少子化対策）プロジェクトチーム座長、などを歴任。

◆ 五カ年プロジェクトスタート ◆

5 カ年計画のスタートを切って、5 月 24 日に立体駐車場（写真右）と 6 月 2 日に管理棟（同左）の起工式が行われました。



お知らせ

● 第 70 回地域医療講演会

「心房細動の外科治療」

日本医科大学第二外科学教室

心臓血管外科教授 新田隆先生

日時 7 月 9 日（金）18：30～

場所 高知パレスホテル

● 第 71 回地域医療講演会

「災害時における院内医療体制の

構築について」

東亜大学医療学部医療工学科

救急救命コース准教授 中田敬司先生

日時 7 月 16 日（金）18：30～

会場 近森病院 管理棟 5 階会議室

● 第 72 回地域医療講演会

「診療国際化に本当に必要なもの」

日本大学医学部医学教育企画・

推進室助教 押味貴之先生

日時 7 月 20 日（火）18：00～

場所 近森リハビリテーション病院
7 階会議室

● 第 73 回地域医療講演会

「不整脈治療の最前線：

生命予後と QOL 改善を目指して」

弘前大学大学院医学研究科

循環呼吸腎臓内科学教授 奥村謙先生

日時 7 月 22 日（木）18：30～

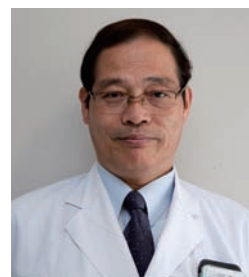
場所 総合あんしんセンター 3 階
中会議室

医療安全の取り組み

『型』を身につけることの重要性

医療安全委員会委員長
神経内科部長

山崎 正博



新しく入職された方は、初めての医療の現場でたくさんの確認事項やチェック項目があって戸惑っていると思います。

医療安全の第一歩は確認やチェックを確実に行うことから始まります。そのためには手順をきちんと守ることがスタートです。例えばポンプで点滴投与中の患者では流量、残量、ライン、刺入部がチェックポイントになります。

新人は指さし呼称で各ポイントを声だし確認することからスタートです。

できていますか？ 声だし確認は何となく恥ずかしい、という気持ちから段々しくなります。そうすると確認方法が身につけません。

それでは、無意識のうちできるように身につけるにはどうしたらいいでしょうか。無意識のうちにならざるには身体で『型』として覚えることだそうです。『型』を身につけるには 3 千回同じことを繰り返すことだそうです。お箸は上手に使えますね。生まれてこのかた、3 千回以上練習しているから身につけているのです。



釣り上げた!! カンパチ

2010年3月に職員旅行で行った石垣島で
近森病院整形外科統括部長
衣笠 清人

「目標のデカンパチ (20kg以上) の
半分くらいですけど、よく引きました。」



編集室通信

男の子の一歳の誕生日に一升のお餅を背中に背負うという一升餅の風習を新聞で知り、我が家でもやることになり、お餅を予約して、当日を迎えたら長男が高熱を出してダウン。二日後には熱も下がり、お餅を背負わせると、泣かずに声をだしながら一步一步ハイハイで前進している姿に日々成長していることを改めて実感しました。

(カツオ)

図書室便り (2010年5月受入分)

- ・OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 14内視鏡・ナビゲーションを併用した脊椎手術 最新の手術手技の見逃せないポイント / 馬場久敏 (担当編集)
- ・ここまでわかる急性腹症のCT 第2版 / 荒木力

- ・ピクトグラム&アイコン・グラフィックス 2世界のユニバーサル・コミュニケーションデザイン実例集 / 三芳伸吾 (編集)
- ・医療経営士テキスト初級 6日本の医療関連サービス病院を取り巻く医療産業の状況 / 井上貴裕 (編著)

- ・第40回日本看護学会論文集 地域看護 / 日本看護協会看護教育研究センター (編集)

- ・平成21年版厚生労働白書 暮らしと社会の安定に向けた自立支援 / 厚生労働省 (編集)

《寄贈本》

- ・写真と動画でわかる二次救命処置 / 杉本壽 (他監修)

- ・がんの症状緩和ベストナッシング / 田村恵子 (編集)

- ・心のつぶやきがあなたを変える認知療法自習マニュアル / 井上和臣

- ・東京へこの国へリハの風を！初台リハビリテーション病院からの発信 / 土本亜理子

- ・Advance in Aging and Health Research 2009 高齢者の口腔機能とケア / 鈴木隆雄 (他著)

- ・NIKKEN SEKKEI LIBRARY2 聖路加国際病院 / 石堂威 (編集)

《別冊・増刊号》

- ・別冊医学のあゆみ がん分子病理診断の新展開 / 坂元亨宇 (編集)

- ・臨床栄養別冊高齢者のための栄養ケア・マネジメントと食事支援カラー特選レシピ60 / 小島康子

- ・総合臨床 Vol.59 増刊日常診療に使えるガイドライン特集—より良い診療を目指して— / 山口直人 (他著)

- ・病理と臨床 Vol.28 臨時増刊号病理形態学キーワード / 「病理と臨床」常任編集委員会 (編集)

- ・泌尿器ケア 2010年夏季増刊基礎からわかる！尿路ストーマケア / 溝上祐子 (他監修)

- ・透析ケア 2010年夏季増刊ポイントがわかる！実践に活かす！術前・術後管理から穿刺・合併症予防までバスキュラーアクセス完全マスターガイド / 赤松真 (編著)

- ・呼吸器ケア 2010年夏季増刊呼吸ケアチーム必携 呼吸療法のための画像診断 画像診断能力チェック付き / 尾崎孝平 (編著)

《視聴覚資料》

- ・社会資源リスト 2010 (雑誌「地域連携入退院支援」3巻7号付録CD) / 日総研出版 (監修)

近森会グループ

外来患者数	16,381人
新入院患者数	739人
退院患者数	730人

近森病院

平均在院日数	16.96日
地域医療支援病院紹介率	82.09%
救急車搬入件数	421件
うち入院件数	200件
手術件数	351件
うち手術室実施	232件
→うち全身麻酔件数	139件

2010年5月の診療数

企画情報室